実践事例02

ICTを活用した在籍校との連携

小学2年生　　Aさん

□場に合わない言動がある

①☑気持ちがうまく伝えられない
（暴言や暴力がある、力加減ができない）

□集団行動が苦手

□遊びのルールがわかりにくく、友達とうまく遊べない

②☑文章を読むことが苦手（直音音読検査　７３文字/1分）

□運動が得意

□語彙が少ない

□漢字を書くことは好き

□テストは別室で受けることが多い（１学期は読み上げで行った）

①気持ちがうまく伝えられない

ICTを使って情報共有することで

表情

言葉

より分かりやすく伝えることができる

活用の流れ

行動面の情報共有

児童や
児童の保護者に
撮影の許可をとる

通級での
夏の個別懇談で
様子を撮影した
動画を見てもらう
（担任）

指導者からの
言葉かけを共有

活用の流れ　行動面の情報共有

Aさんに対する指導中の言葉かけ

- 「勝負に負けた時どうなるの？怒って暴れたりする？」
  →Aさん「怒らんよ」実際怒らずに最後までできた

- 不適切な言葉を使った時に
  「〇〇って言えたらいいよね」と
  言葉を教えてレパートリーを増やす

など

活用の流れ

行動面の情報共有

Aさんに対する指導中の言葉かけ

・担当者が児童の真似をして、
自分がしている行動を客観的に見る機会をつくる

・分からない時は「**分からない**」「**教えて**」と
言ったら良いと伝える

など

指導をした成果

〔Aさんの学校での様子〕

・トラブルが少し減った

・授業を抜けて退室してしまった時の
　クールダウンが早くなった

・分からない時に「分からない」と言えることが
　増えた

ICTを使った取組を行って　行動面の情報共有

○担任の先生に、教室ではあまり見られない
　一面を見てもらうことができた

○保護者の方にも指導の様子を見てもらい
　「頑張ってるね。すごいね。」と
　声をかけてもらうことができた

今後（ICTを活用した情報共有について）

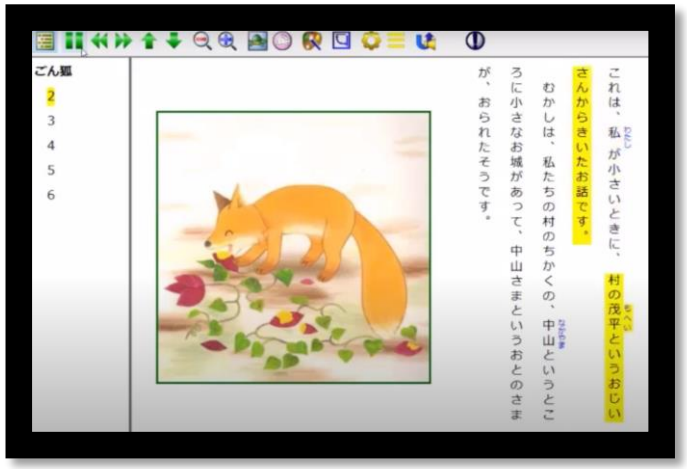
・引き続き、適切な関わり方ができている様子を撮影する
・Google MeetやC4thを活用して動画を見てもらい、通級指導の意図を伝える

→学級での言葉かけに生かしてもらう

②文章を読むことが苦手

ICTを使って情報共有することで

デイジー教科書



使い方

知ってもらったり詳しく見てもらったりすることができる

活用の流れ

読みのサポート

デイジー教科書の**申請**（９月）

通級で使用開始

使用している様子を撮影

電話やC4thでGoogle Meetをつなぐ

日程調整する

使用している様子をGoogle Meetで見てもらい、

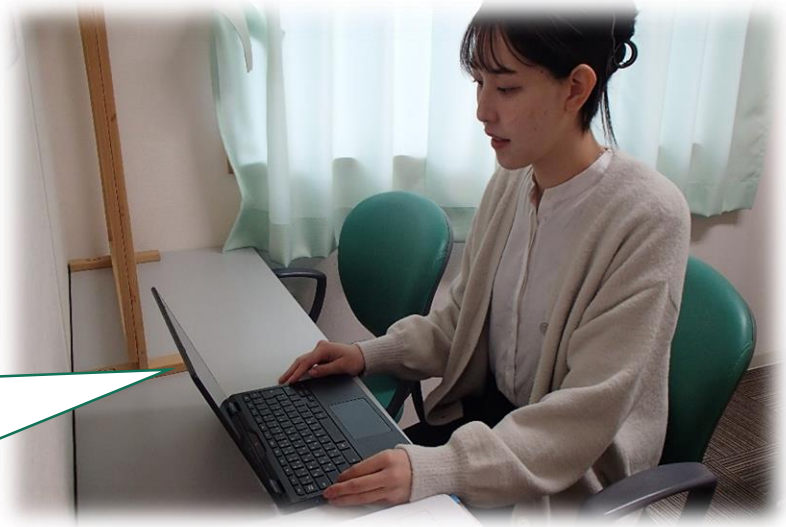
今後の支援方法を検討する

活用の流れ　読みのサポート

担任の先生とGoogle Meetをつないで

担任の先生から

・「お手紙」は内容が面白いと言って音読劇を頑張っていた



デイジー教科書を使った成果

〔Aさんの様子〕

- 自分に合った教材を見つけることができた
- 児童が教科書の内容に興味をもったり覚えたりすることが増えた

ICTを使った取組を行って　読みサポート

○デイジー教科書そのものや
　使い方を知ってもらえた
○児童がデイジー教科書を実際に
　使っている様子を見てもらうことができた
△家庭でデイジー教科書を使用する方法
△Chromebook持ち帰り日数の追加
　（通常は週１回毎週水曜日）

今後（ICTを活用した情報共有について）

- 他の児童もデイジー教科書が使えるようにするために、申請の流れをわかりやすく伝えるスライドを作成する
- デイジー教科書のログインがスムーズにできるようにするために、二次元コードを作成する
- 単語フラッシュ※1の教材データを共有する

（※1 教科書によく出てくる単語の読み練習）

ICTを活用した情報共有を行って・・・

○オンラインだと移動時間がなく、その分話ができる
○電話では分からない様子をより詳しく伝えることができる
△実際の指導の時に、Google Meetをつないで
　様子を見てもらうことは時間の都合上難しい
（授業や校内研修と重なっている）
△様子を共有する際、時間の都合で特別支援教育
　コーディネーターや管理職の先生のうち
　どなたかに同席していただくことが難しい